

```
</svg>
<svg xmlns="http://www.w3.org/2000/svg" viewBox="0 0 0 0" width="0" height="0" focusable="false" role="none" style="visibility: hidden; position: absolute; left: 0px; top: 0px; width: 0px; height: 0px; border: none; margin: 0px; padding: 0px;" />
</svg>
▼ <div id="body_wrap" class="home page-template-default page page-id-9 -index-off -sidebar-off -frame-off top 14,7">
  ▶ <div id="sp_menu" class="p-spMenu -right">☰ </div>
  ▶ <header id="header" class="l-header -parallel -parallel-top -transparent -t-fff" data-afix="1">☰ </header>
  ▶ <div id="fix_header" class="l-fixHeader -parallel -parallel-top -transparent -t-fff" data-rady="1">☰ </div>
  ▼ <div id="main_visual" class="p-mainVisual -type-single -height-full" style="--swi-headline: 0px; --swi-hr-height: 00px;">
    ▼ <div class="p-mainVisual_inner">
      ▼ <div class="p-mainVisual_slide c-filterLayer -texture-dot">
        ::before
        ▶ <picture class="p-mainVisual_imgLayer c-filterLayer_img">☰ </picture>
        ▼ <div class="p-mainVisual_textLayer l-parent l-container u-ta-c" style="color:#ffffff;text-shadow: 1px 0px 0px #000, 0px 1px 0px #000, 0px 0px 2px #000;">☰
          ▼ <div class="p-blogParts post_content" data-partsid="1860">
            ... ▶ <div class="swell-block-fullWide pc-py-80 sp-py-0 alignfull" style="background-color:#000; color:#fff;">☰
              </div>
            </div>
          ::after
        </div>
      </div>
    </div>
  </div>
```

# ITエンジニア特化型ソフトスキル強化プログラム サービス概要資料



本資料は、株式会社EdWorksが提供する、ITエンジニア特化型「ソフトスキル強化プログラム」の概要資料です。

本資料に記載の内容は資料作成時点での情報に基づいています。最新情報に変更がある場合がありますので、最新情報は弊社までお気軽にお問合せ下さい。

1

ITエンジニアにソフトスキルが重要な理由

2

ITエンジニア向けソフトスキル強化プログラム

1

ITエンジニアにソフトスキルが重要な理由

2

ITエンジニア向けソフトスキル強化プログラム

# ITエンジニアのよくある課題

コミュニケーションエラーやお客様の表面的な課題を追ってしまい、プロジェクト成功に導けないといった課題があります。

## お客様やプロジェクト関係者との コミュニケーションエラー



説明がわかりにくい、上から目線と言われる、専門用語を使い認識齟齬が多発するなど。結果、技術力が高いにも関わらず、担当変更を要求されるケースも。

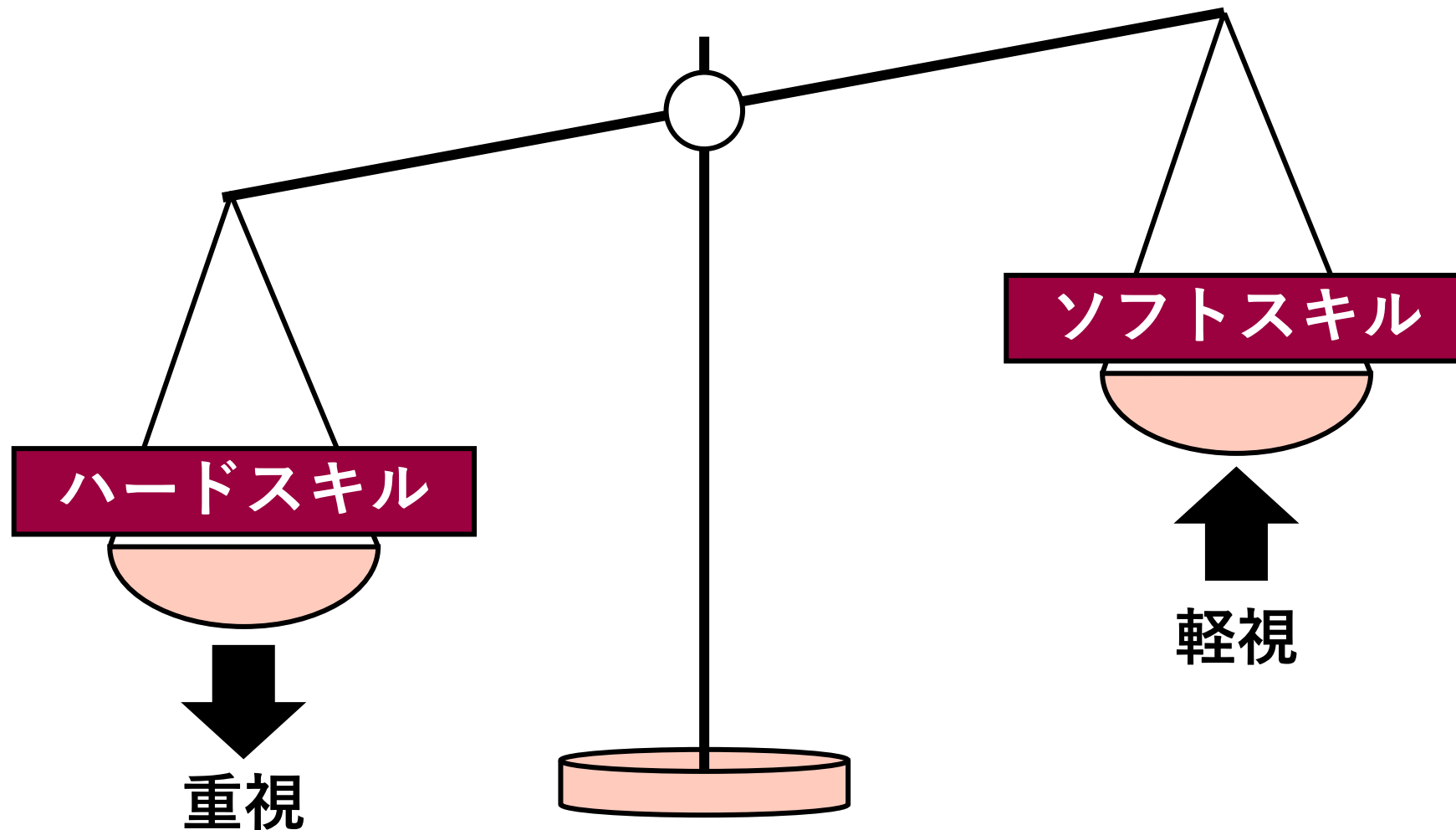
## お客様要件に基づいて開発した システムが評価されない



お客様の要望に対して意図を考慮せず、技術面からのみアプローチし実装を試みるなど。結果、お客様要望に従ったものの、完成後に運用に耐えられないと言われるケースも。

# 課題の原因

ITエンジニアとして技術力を高めることが奨励、優先されやすいため、プロジェクトを成功に導くためのソフトスキルが育成できていないことが原因の一つです。



# ハードスキルとソフトスキル

ハードスキルはテクニカルなスキルでソフトスキルはベースとなるスキルと言えます。

## ハードスキル

### IT技術などのテクニカルなスキル

#### ■特徴

- スキルの測定が比較的容易で資格等が整備されている
- Java●●年という形で履歴書にも記載が可能

## ソフトスキル

### コミュニケーション力、問題解決力などベースとなるスキル

#### ■特徴

- スキルの測定が困難で仕事を通じて学ぶものとされている
- 履歴書には記載できないが、面接では最も重視される

※ソフトスキルという用語は1960年代後半に米軍によって開発された

# ハードスキルとソフトスキルのメタファー

		例え	説明
例1	ハードスキル	アプリケーション	<p>インストールできるアプリケーションはパソコンのOSやスペックに依存する。パソコンを高スペックにすることで、処理能力が上がり、よりリッチなアプリもインストールできるようになる。</p> <p>ハードスキルもソフトスキルの“スペック”に依存してパフォーマンスが変わる。</p>
	ソフトスキル	パソコン	
例2	ハードスキル	車	<p>ペーパードライバーではフェラーリの性能を引き出すことはできない。</p> <p>どんなにハードスキルが秀でていても、ソフトスキル次第では活かすことができない。</p>
	ソフトスキル	ドライバー	



# ソフトスキルが重要である3つの理由

1

IT技術にレバレッジをかけられる

2

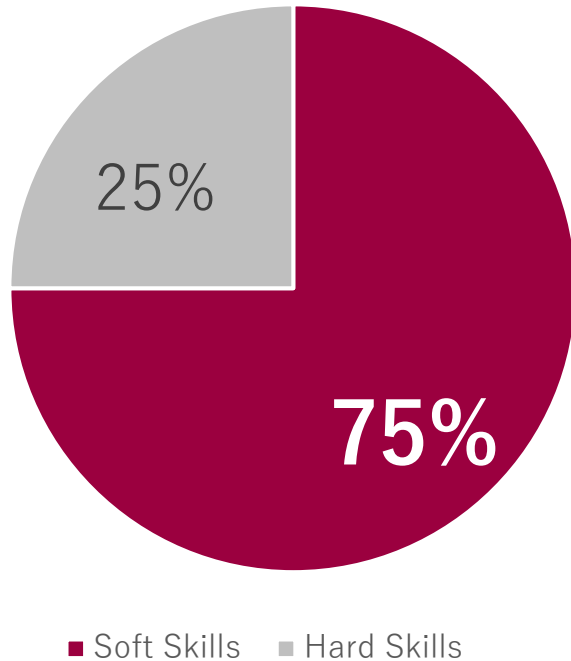
技術変化を超えて活用できる

3

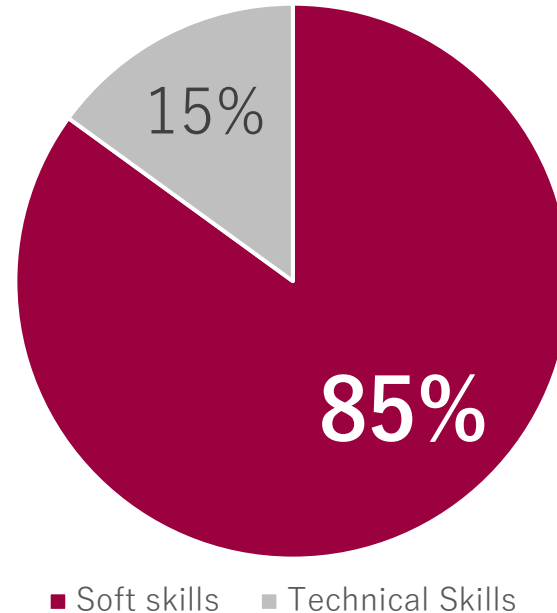
分野変更、昇進をしても活用できる

# 参考：海外における研究結果

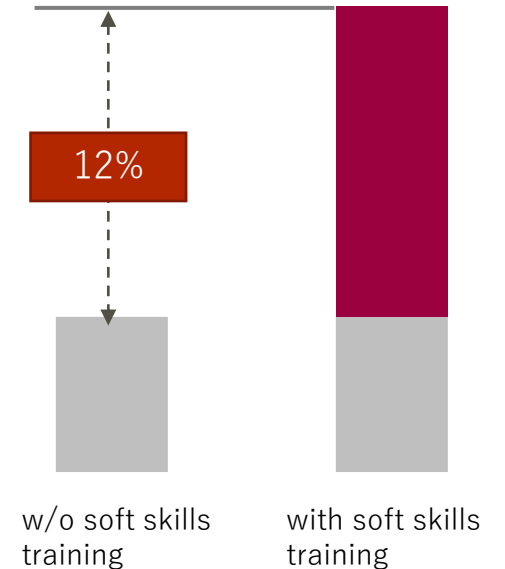
Fortune 500 CEOへのスタンフォード、カーネギーメロン財団の調査によると、長期的な仕事の成果は75%がソフトスキルによってもたらされていると報告。



ハーバード大学による報告によると、職場における成功の85%はソフトスキルによるもので、テクニカルスキルは15%にしか過ぎない



ボストン大学、ミシガン大学ロスの調査でソフトスキルのトレーニングを受けた従業員は受けていない従業員に比べて12%生産性が高かった

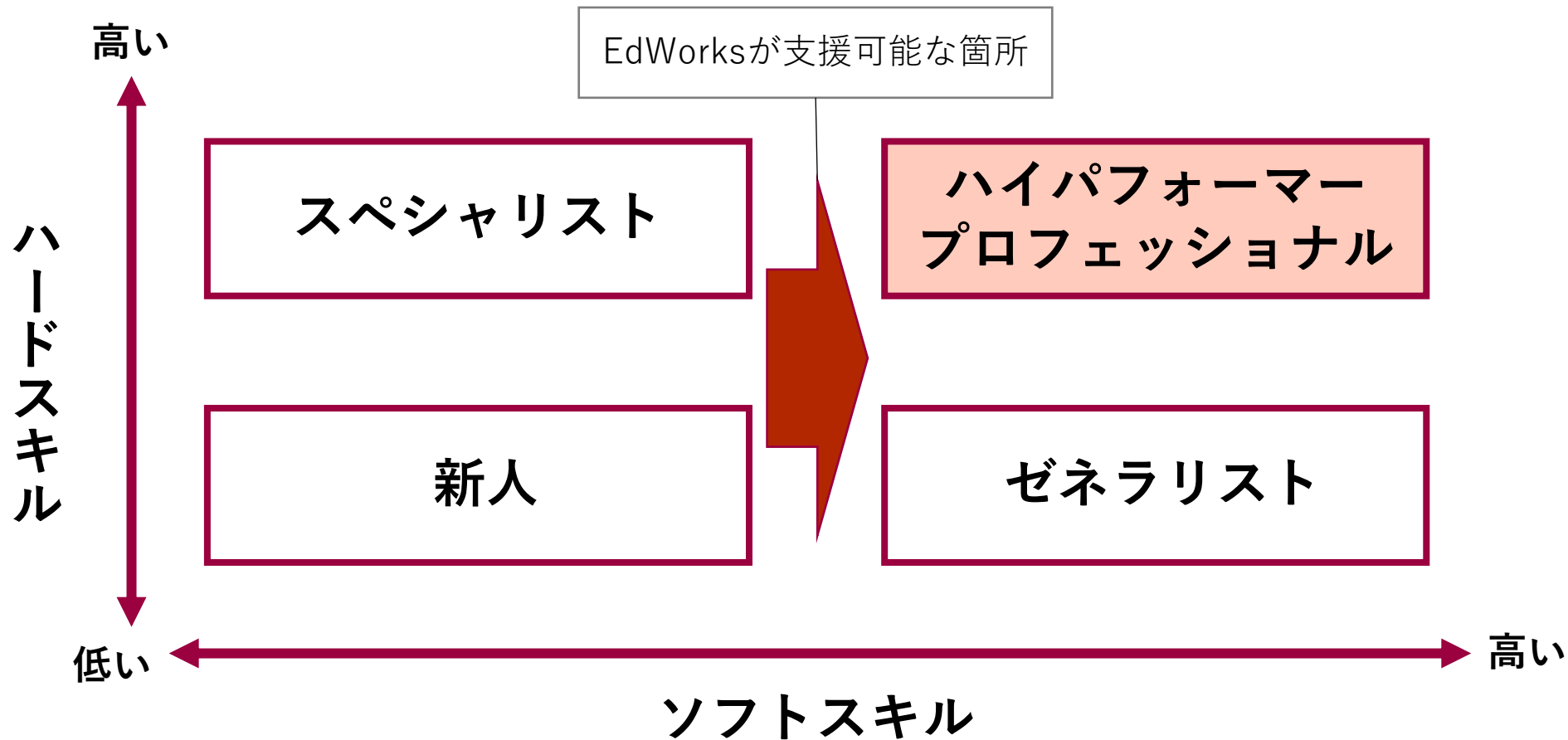


出所：Levasseur, Robert E. (2013). "People Skills: Developing Soft Skills — a Change Management Perspective"

出所：World Journal of Advanced Research and Reviews, 2019, 03(02), 066072

# 目指すべきITエンジニア像

ハードスキルとソフトスキルの双方のレベルが高いITエンジニアを目標とするべきです。



1

ITエンジニアにソフトスキルが重要な理由

2

ITエンジニア向けソフトスキル強化プログラム

# EdWorksが提供するプログラムの特長

弊社はトレーニング後の“成果”にこだわる人材育成企業です。成果にこだわるため、従来の1日完結型の「研修」は実施しません。

1

## 受講生ひとりひとりへのコーチング

受講生の状況に合わせたコーチングも組み合わせ、トレーニング内容の定着化を図ります

2

## 現場マネージャーとの連携

上長・メンターへトレーニング内容を随時フィードバックし、上長・メンターと連携して育成を行います

3

## 1日集合研修をやらない

短時間トレーニングを毎週繰り返す反復学習を行うことで、日常業務への負荷低減と学習内容の定着化を図ります

4

## 効果測定の実施

トレーニング受講前と受講後に上長・メンターと連携し、受講者のスキル評価を実施し、成長度合いを可視化します

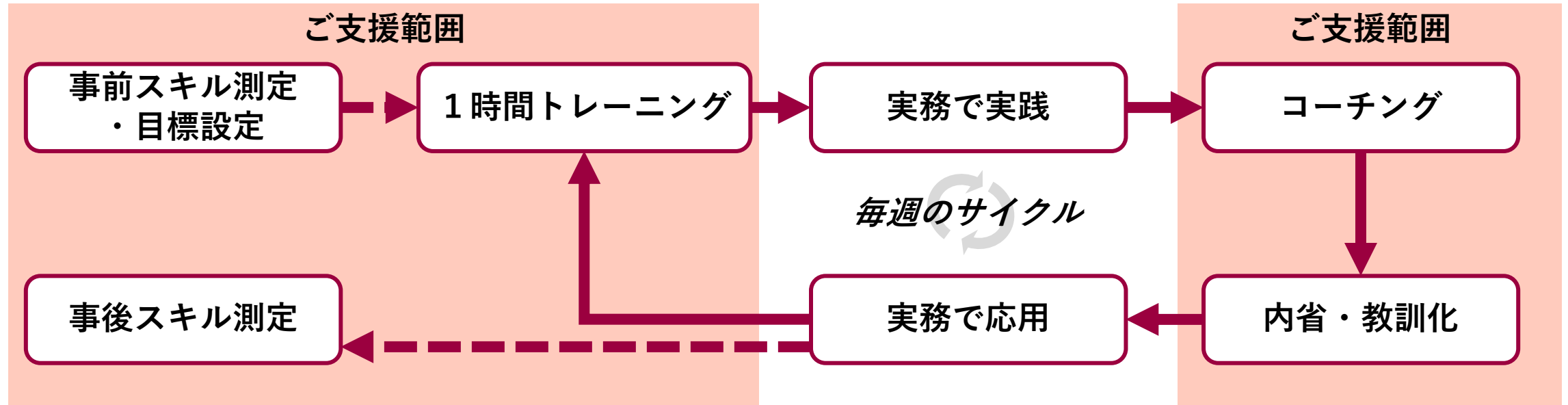
5

## ソフトスキルに特化

成果に直結し、汎用的に使えるソフトスキルのトレーニングに専門特化しています

# ソフトスキル強化プログラム概要

トレーニング、実務、コーチング、測定のサイクルを繰り返すことで、“学びっぱなし”にせず、きちんと実務で使えるレベルへ引き上げます。



## ポイント

一人ひとりへのコーチングで内省支援

週1時間程度の座学で負荷軽減

現場マネージャーと連携し育成をサポート

効果測定の実施でやりっぱなしを防止

# プログラム実施イメージ

従来型 研修		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	一日または複数日に集中して研修を実施。 スケジュール調整はしやすいが単発で実施して終了してしまう。
		業務	業務	研修	業務	業務	

弊社 プログラム		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	トレーニング時間を定期的に設けることで、測定・トレーニング・業務活用・コーチングのサイクルを回し、着実にスキルアップが可能となる。 業務がトレーニングの一環となり、トレーニングが業務の一環となる。
	1週目	測定 業務	業務	トレーニング 上長報告 業務	業務	業務	
	2週目	業務	業務	トレーニング 上長報告 業務	業務	業務	
						コーチング	

# スキル測定と目標設定

トレーニング対象のスキルを自己評価、マネージャー評価をして頂いた上で、トレーニング後の目標を設定した上で臨んで頂きます。また、トレーニング後の事後評価も実施します。

## ソフトスキル測定シート

名前	山田太郎
マネージャー	新宿花子

評価項目	Stage-S	ほとんど完璧に実施することができ、他者に対して指導することができる (90~100%達成)
	Stage-A	一部改善余地はあるが、ある程度実施することができる (70~89%達成)
	Stage-B	実施できない部分があり、上司や他者からしばしば支援を受けている (30~69%達成)
	Stage-C	ほとんど実施できていないため、上司や他者から常に支援を受けている (0~29%達成)

カテゴリ	No	スキル	チェックポイント	トレーニング開始前評価		トレーニング後目標	マネージャーコメント	スキル
				自己評価	マネージャー評			
コミュニケーション力	9	説明力	説明の受け手にとってわかりやすい説明を行うことができる。 ・受け手の立場に立ち、説明することができる	B	B	A	ご自身の得意領域については明快に説明をされますが、新しい分野に関しては説明が不明瞭になるケースがあります。	
コミュニケーション力	10	プレゼン力	多人数向けにわかりやすい説明をすることができる。 ・資料、スライド構成を多人数向けに工夫することができる ・多人数向けの話し方ができる	A	B	A	話し方は上手だと思いますが、スライドの構成はまだ改善の余地があると思います。	
コミュニケーション力	11	図式化力	説明する際に表やグラフ等を適切に使用することができる。 ・文字情報を視覚化することができる ・表、グラフ、プロセス図等を適切に利用することができる	C	C	A	ご本人もご承知のとおり、プレゼンや説明時に文字に頼ったコミュニケーションが多いため、図で表現する方法を学習してください。	
コミュニケーション力	12	文章力	受け手にわかりやすい文章を書くことができる。 ・文章で簡潔、明瞭に表現することができる ・不明点や誤解を招かない書き方ができる	B	B	A	文章は簡潔で分かりやすいですが、まだまだ改善の余地はあると思います。	
コミュニケーション力	13	質問力	話し手の意図を正確にくみ取り、質問によって相手に気づかせることができる。 ・話し手の意図を正確にくみ取る質問ができる ・示唆質問を通して話し手に気づきを与えることができる	A	B	A	通常の質問については問題ありませんが、相手の真意を問う質問の仕方を身に付けられるとさらによくなると思います。	
コミュニケーション力	14	非言語コミュニケーション	状況に応じて適切な振る舞いをするすることができる。 ・状況に応じて身振り、表情、服装等を意図的に変えることができる	B	B	B	大方問題ないと思いますが、お客様先に出た際に好印象が与えられる方法を学習してください。	
			利害対立が起きた際に、勝ち負けではなく双方の利益となる				相手から強めの要求・要望が出た際に思考停	



# 型を学ぶ | トレーニングの進め方

トレーニングでは資料を使って体系的な知識を習得し、質問を通して理解を深めて頂きます。




原理原則をわかりやすく説明します。  
受講者の職種や役職、経験年数に合わせて説明するレベルやトピックを変更します。




実際のビジネスに当てはめたケースをもとに受講生へ質問をし、考えを述べて頂きます。回答によっては更に補足説明を行うなど理解度に合わせて進行します。

伝える力原則① ロジカルに


ソラ・アメ・カサに沿ってロジカルに伝えることが最重要です

 **ソラ** 空を見ると雲が出ている

↓

 **アメ** 雨が降りそうだ


↓


 **カサ** 傘を持って出かけよう


© 2023 EdWorks Corporation

質問 | ソラ・アメ・カサの活用方法

次の説明内容で抜けている箇所がないか、ソラ・アメ・カサに沿って考えて下さい。  
「この四半期は目標未達だった。競合が価格を20%も下げた提案をしかけてきてきているため営業に苦戦した。我々も競合に負けないように標準価格を下げるべきだ。」

 **ソラ**

 **アメ**

 **カサ**

© 2023 EdWorks Corporation

一般的な研修と異なり、テキストではなくパワーポイントを用いることで理解の促進を図ります。

## 論理の主な“カタ”

演繹法と帰納法	法則から結論を出す筋道と事象から結論を出す筋道
構造化	あいまいな事象を構造的に捉える方法
FactとMECE	事実をきちんとおさえ、もれなく、だぶりなくする
Why so? So What?	なぜそうなのか？だから何なのか？を掘り下げる
まとめ（ソラ・アメ・カサ）	事実を解釈し、行動に移すシンプルな考え方

## 伝える力原則② 相手に期待する行動を想定

受け手にとってもらいたい行動から逆算して伝えることが重要です



期待する受け手の行動 例：マーケティング予算を提出してもらおう

何を伝えるか 例：予算の費用対効果を説明する

## プレゼン原則① 声の強弱とトーン

声には太字もマークも引けないため、強弱・トーンで強調する必要があります。



スタンフォードなどの研究によると、仕事の成果の85%はソフトスキルによるそうです。

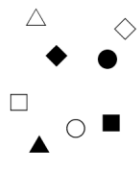


スタンフォードなどの研究によると、仕事の成果の**85%**は**ソフトスキル**によるそうです。

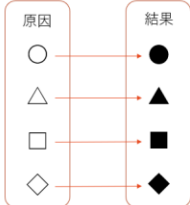
## 構造化とは

演繹法と帰納法がわかって、事象を正しく構造化できなければ意味がない  
構造化とは「分けて」「関係を整理すること」

バラバラな事象を



構造化



## 伝える力原則③ 相手の前提知識を想定

相手の前提知識、リテラシーに合わせた説明を心がけることが重要です。当たり前ですが、常に意識し続けないとちょっとしたことで、受け手に伝わらないことがあります。



取引先 そもそも弊社業務を知っているのか

他部門 当部門の取り組み背景を知っているのか

同僚 前週の結果を知っているのか



「冗長化サーバーとの同期にエラーが発生し・・・」  
「PCI DSSに準拠したサービスを提供し・・・」

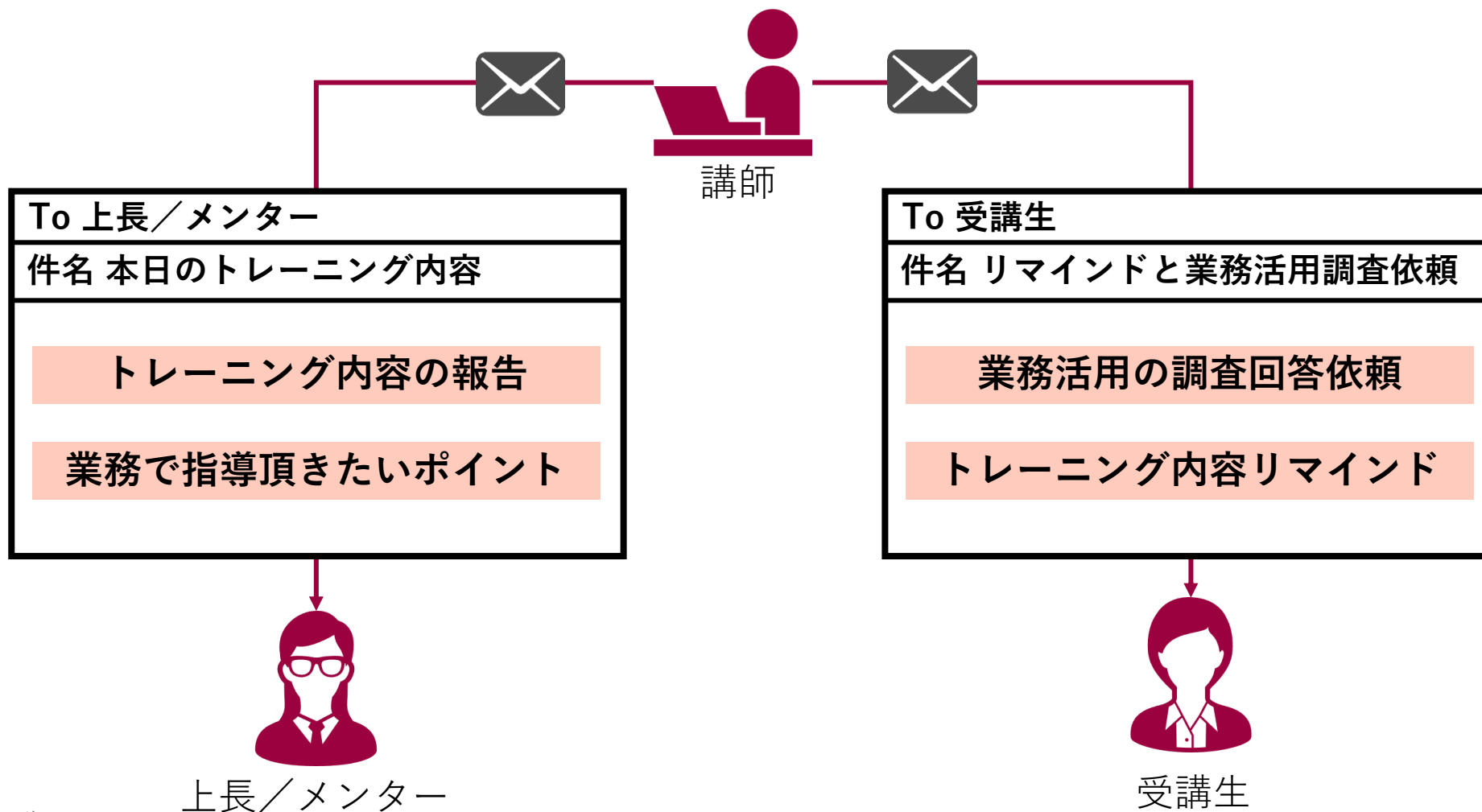
## プレゼン原則③ 配布物・スライドの情報量

スライドの情報はポイントに絞り、プレゼン前にこれから話す内容を網羅した資料を配らない。



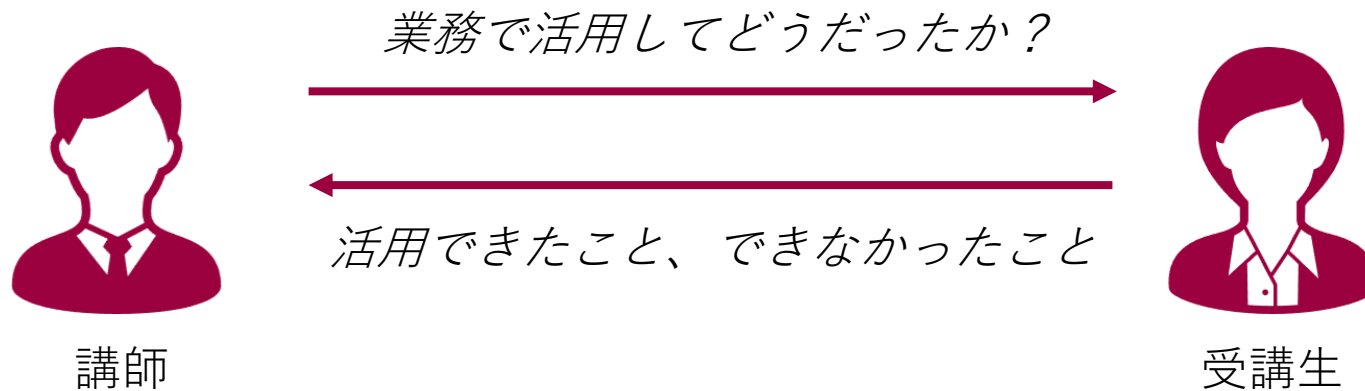
# 上長報告と受講生フォローアップ

トレーニング終了後は上長／メンターと受講生のそれぞれにフォローアップメールをお送りします。業務との断絶を防ぎ、学習内容を定着化させるために毎回実施します。



# 内省化支援

定期的に受講生と1対1でトレーニングで実施した内容の振り返り支援を行います。業務でつまづいたことやできたこと、できていないことを内省、言語化することで再現性を高めます。



## ポイント

活用できた点は言語化することで、別の場面でも実践できるように

活用できなかった点は「なぜできなかったのか」を振り返り、次週以降に再度実践

躓いたところは個別にフォローアップし、次週以降に活用

# 従来型研修との違い

	従来型研修	弊社プログラム
教育内容	階層別／分野（トピック）別	ソフトスキル特化
期間	半日～数日	週1回60分×2,3か月※
効果測定	なし	あり
研修受講者所属部門の関与	なし	あり
コーチング	なし	あり

※ トレーニング回数はお客様の課題に応じてカリキュラムを組むため変動します

# ハイパーフォーマーITエンジニアに共通するソフトスキル

## 問題解決力

ビジネスにおける課題を設定・特定し、ロジカルに適切な解決策を立案、スピード感をもって実行できる能力

## コミュニケーション力

他者と円滑にビジネスを行うために適切に伝え、適切に受け取り、共通の利益を見出す能力

## チーム力

組織・チームを適切に動かし目標を達成させる能力

## セルフマネジメント力

タスクを適切に管理、処理し、自らをモチベートすることができる能力

## ビジネスリテラシー

専門外の事象であっても適切に処理し、必要に応じて専門家に協力を依頼できる能力

3つのトレーニングメニューを土台に、課題に合わせたカリキュラムを個別にご提案致します。

## 基本コース

### 【問題解決力】

- ロジカルシンキング
- 問題発見
- 問題解決

### 【コミュニケーション力】

- 説明力
- ライティング
- 質問力
- 非言語コミュニケーション

## 応用コース

### 【問題解決力】

- 分析力
- 発想力

### 【コミュニケーション力】

- プレゼンテーション力
- 図解力
- コンフリクトマネジメント

## PMコース

### 【チームワーク】

- ファシリテーション
- 根回し・調整力
- リーダーシップ
- プロジェクトマネジメント

# 対象者と概算トレーニング期間

コース	対象者	目指す姿	概算期間※
基本コース	新人 (業務経験 1 ~ 2 年)	PMのもとでプロジェクトに入り、お客様と適切にコミュニケーションを行える人材	2 か月
応用コース	若手 (業務経験 2 ~ 5 年)	PMの補佐としてプロジェクトに入り、要件定義からトラブル対応まで行える人材	3 か月
PMコース	若手・中堅 (業務経験 3 年以上)	PMとしてプロジェクト全体を取り仕切り、関係者を巻き込んで成功に導ける人材	4 か月

※ 週 1 時間実施した場合。課題に応じて期間は多少前後します。



## 事例 1

## 事例 2

### 企業概要

東証プライム市場上場の大手SIer

大手製造業の戦略的IT子会社

### 課題

クラウドサービス導入グループの次期リーダー層のITエンジニア育成

開発プロジェクト参画中の若手ITエンジニアの戦力化

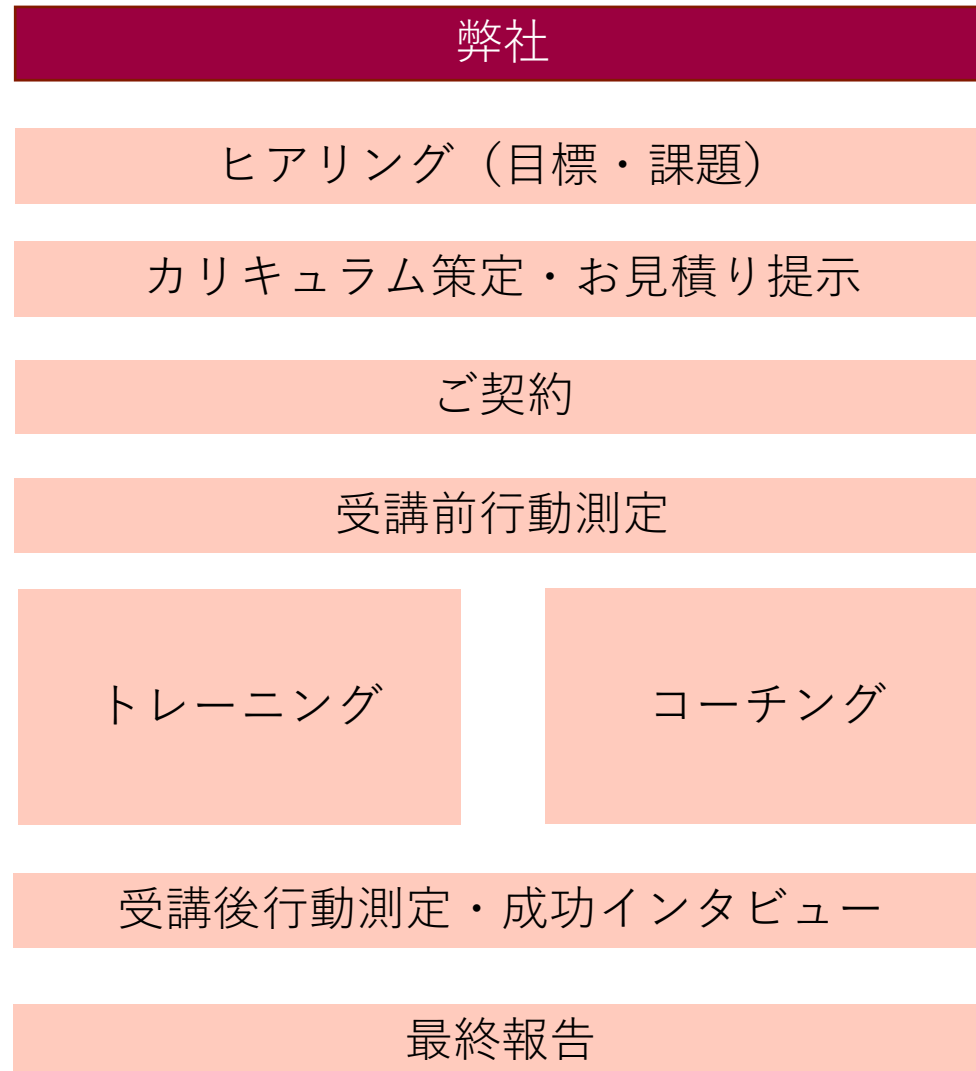
### 弊社支援

5名のグループに分け、問題解決、コミュニケーションをメインに2か月で9回のトレーニングと個別コーチングを実施。受講生の課題を上長と連携し、業務とシームレスで支援を実施。

基本的な問題解決能力とプロジェクト関係者と円滑なコミュニケーションが実施できるトレーニングを実施。あわせて受講生の上長に対して、人材育成のコーチングを実施。

※ 詳細はお打合せにて開示可能

# サービス全体の流れ



※ 順番は一部前後する場合があります

## ITエンジニアの育成課題を解決します

導入に関するご相談・ご質問、お見積はホームページまたはメールよりお気軽にお問い合わせ下さい。



株式会社EdWorks

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-3-13 西新宿水間ビル6F

Mail : [info@ed-works.co.jp](mailto:info@ed-works.co.jp)

Web : <https://ed-works.co.jp/>